

情報(産業と情報、情報活用)

「我が国の情報と産業との関わり」

アプリ

オクリンク

ねらい

- ・情報通信技術で集められた情報を適切に読み取り、活用する技能を身に付ける。
- ・複数の情報から物事を多面的にとらえ、それを言葉や表などで説明したり、議論する力を養う。
- ・集められた情報がわたしたちの暮らしを豊かにするために活用されていることを身近に感じる。

STEP 1

電子マネーや交通系ICカードは使用の度にデータが集められており、そのデータが商品開発や新店舗の出店など様々なことに活用されていることを確認。

<発問1>「交通系ICカードはどのようなデータの取得に役立っていると思いますか」

<回答1>「どの駅を利用しているか」「駅でどのくらいの人が乗り降りしているか」「買い物ができるカードであれば買ったものや、どこで買ったのかもわかるのではないかなど。

<発問2>「そのデータにより、どんなことが分かると思いますか」

<回答2>「人がよく使う駅はどこか」「どんなものや場所が人気なのか」「どんな人が利用しているのか」など。

STEP 2

◆ めあて：データを活用してショッピングモールを建てよう

・本時の活動内容の確認。

「あなたは新人の土地開発者です。新たにショッピングモールを建てることになりました。候補地は4つ、隣接するABCDの4地区です。たくさんの人に来てもらい、なおかつ周辺地域が活性化するように、候補地の中から最適な場所を選ばなくてはなりません。あなたはまず、この4地区について資料やデータを集めました。この資料をしっかりと読み、建設地を決めてください」

・オクリンクのカードに貼られた建設予定のショッピングモールの概要、建設候補地の4地区に関するデータの説明を聞く。

・すべてのデータや情報を見て必要な箇所に印をつけたり、気になる点、重要だと思うことなどを書き込み、自分の考えを固める。

・自分の考えとその根拠を、データを指し示しながら班のメンバーで伝え合う。

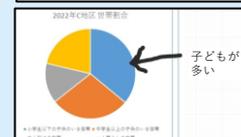
・他者が着目した点や考えを聞き、自分の考えと比べながら話し合いを行い、ABCDの4地区の中から班で建設地を1つ決定する。

<子どもの対話例>「A地区の人口が少ないので、ショッピングセンターを建設し、住民を増やすのはどうか」「地域を活性化する目的からすると良い考えだと思うが、A地区は会社が多いので家族向けの施設は合わないと思う」など。

・書き込みを行ったデータカードはそのまま発表資料として使用することとし、まとめカードに「班として選んだ地区」「データのどこに注目したのか」「話し合いの結果得た自分の意見」を書き込む。

・データのカードとまとめカードをつなげて提出BOXへ送る。

・班の代表がつなげたデータカードとまとめカードを画面共有しながら、開発チームになりきって候補地を推すプレゼンを行う。



地区	特徴
A地区	人口が多い、会社が多い、交通の便が良い
B地区	人口が多い、公園が多い、緑が多い
C地区	人口が多い、子供が多い、公園が多い
D地区	人口が少ない、公園が多い、緑が多い

子どもが書き込みを行ったデータカード

建設予定地：C地区 3班
私たちの班はC地区を選びました。選んだデータは人口増、子育て世代、緑が多い地域です。人口のグラフでは最も少ないですが、人口増のデータを見ると少しずつ人口がふえていることがわかりました。ショッピングモールは家族向けなので、世帯数にも注目しました。緑地も家族が多いけど、小学堂以下の子供が多い地域がよいと思いました。また、緑地が多いことで、この地域が今後も家族が増えるのではないかと期待したからです。C地区には学校があることから、我が班が学校近くに利用するのにはよいと思いきや、なるほどと思いました。ただ、学校周辺の利便性は高くないので、建設地がたくさん集まる方がよいと思いました。

子どもが作ったまとめカード

▶ 使い方動画 [複数のカードをつなげてひとつの資料にする方法](#)

▶ 使い方動画 [画面をクラス全員に共有する方法](#)

STEP 3

<まとめ>

・データから情報を読み取ることができたか確認。

・班で話し合いを行い、自分とは異なる視点や考えを取り入れることができたか確認。

・次時からは実際にデータがどのような場面で活用され、私たちの生活を豊かにしているのか学習していくことを知る。